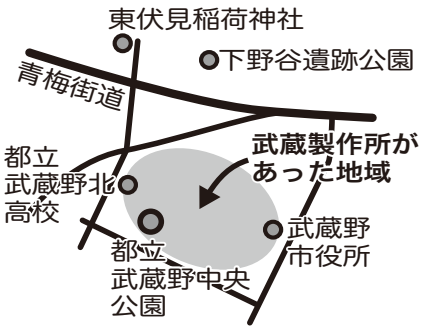


柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042・464・8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042・461・1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042・461・9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042・421・3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042・424・3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042・421・1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



しじゅうから第二公園



公民館だよりが伝えてきた 地域の戦争の記憶

西東京市公民館は、旧保谷市の「ほうや公民館だより」の頃から、西東京市域が受けた空襲等の戦争体験について、編集に携わる市民と職員が関係者への取材や調査等を行い、そこからわかったことを地域の歴史として伝えてきました。

「ほうや公民館だより」は…

「ほうや公民館だより」は、昭和55(1980)年4月に市報から独立して定期発行されるようになりまし。その年の8月20日号に、2ページにわたる特集記事「あゝ今日も生きられた 保谷の空襲」を掲載しました。19人の関係者取材し、その証言に基づいて、昭和19年11月24日のB29による初めての空襲による被害や中島飛行機株式会社武蔵製作所(以下「中島飛行機武蔵製作所」)が受けた爆撃等の被害について伝えてい

ます。特集記事の冒頭には、「…かつてはこの保谷にも一般の人々には抗しえない戦争があったのです。爆弾の雨の中を逃げるしかなかつた地域の人々。われわれは地域の人々の体験を通して、戦争とは何かをもう一度考えてみる必要があります。そのきっかけとなればと、この特集を企画しました。…戦争体験を風化させないための第一歩になればと思います」と書かれています。

3年後の昭和58年8月20日号では、5ページを使って「思い出にはしたくない」保谷の空襲 もう戦争はいや!! 当時の先生と子供たちが語る」という特集を組みました。戦争末期の混乱期に小学校5・6年生を過ごし、満身に勉強ができなかったからと、掲載当時、毎月勉強会を開いていた先生と生徒のみなさんによる座談会での証言をまとめたものでした。

下の訓練だった!! —米軍機密文書で確認—を掲載しました。関係資料の調査や関係者への取材・座談会を重ね、協力を得て、現在では多くの人に知られるようになった模擬原子爆弾「パンキン」の投下とその被害について伝えていきます。

さら、「街かどから」コーナーで「幻の鉄道」を、「出歩きガイド」コーナーで中島飛行機武蔵製作所と現在のJR武蔵境駅を結んでいた貨物の引き込み線のことを紹介しています。

「幻の鉄道」については、その後9月20日号まで3回続けて連載され、当時を知る市民の証言と鉄道の痕跡を探る取材の結果として、鉄道が通っていたと考えられるルートを紹介しました。その前にも「ほうや公民館だより」は、昭和61年6月20日号・7月20日号で、「幻の鉄道」について取り上げていました。

その後、平成5年7月20日号でも特集を組み、市民への情報提供を呼びかけました。

戦後50年にあたる平成7年度は、「戦争資料コーナー」を設け、家庭用品購入通帳や通行証明書、防衛食の陶製容器などの市民が所有する資料を証言とともに紹介しました。

その後も、平成8年7月20日号・8月20日号、同9年7月20日号、同10年7月20日号、同11年

8月5日号に、「保谷の空襲・戦争資料シリーズ」として、関係記事を掲載しました。

「西東京市公民館だより」は、「西東京市公民館だより」になってからも、中島飛行機武蔵製作所や西東京市が受けた空襲等について、時に新たな証言も交えながら、さまざま形で伝えてきました。現在の谷戸町二丁目にあった中島飛行機株式会社

のエンジン試運転工場であった市公民館だより」は、平成16年9月1日号、同17年8月1日号、同18年2月1日号、8月1日号、銃後を守る婦人・青年組織を取り上げた同21年8月1日号、同28年8月1日号、9月1日号、同29年8月1日号、同30年8月1日号などです。

公民館だよりが地域の戦争体験を掘り起こし、伝えることができたのは、企画・編集を職員だけでなく市民スタッフと一緒に進めてきたからです。市民が情報提供や取材に協力してくださったからだと思えます。

昭和55年8月20日号の特集から約40年。あの特集は、戦争体験を風化させない第一歩にすぎたでしょうか。

第二次世界大戦末期、西東京市域は頻りに空襲を受け、200人以上の市民が犠牲になりました。隣接する武蔵野市に日本最大の飛行機工場の一つである中島飛行機武蔵製作所があり、この軍需工場がアメリカの攻撃目標になったからです。武蔵製作所に投下された爆弾の約9割は工場以外に落ち、市民生活が甚大な被害を受けました。

模擬原子爆弾は、本物の原爆と同形・同重量(4.5トン)で、核物質ではなく高性能爆薬が詰められていました。黄色に塗装された球体だったので、「パンキン」と呼ばれていました。

アメリカは、実戦訓練のために模擬原子爆弾を日本国内の49か所に投下しました。昭和20年7月29日に、その中の1発が、現在のしじゅうから第二公園がある場所に落ち、3人の女性が亡くなり、11人が重軽傷を負いました。

現在の谷戸町二丁目にあった試運転工場をデストロするために、中島飛行機武蔵製作所で製造したエンジンの運搬用の軽便鉄道がありました。昭和19年秋口に線路の敷設が始まり、10月頃に開通、昭和20年の終戦とともに撤去されたそうです。

「ほうや公民館だより」総編集3—第211号〜第270号(平成5年度〜平成9年度)

「ほうや公民館だより」総編集4—第271号〜第295号(平成10年度〜平成13年度)

「西東京市公民館だより」縮刷版—第1号〜第46号(平成13年度〜平成16年度)

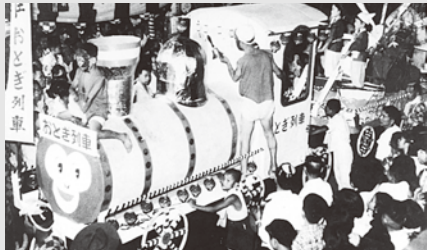
「西東京市公民館だより」縮刷版2—第47号〜第106号(平成17年度〜平成21年度)



写真で見るといまむかし番外編 田無盆踊り最終日・仮装大会

総持寺の境内では、昔から盆踊りが盛大に行われていました。戦時中も休むことなく続けられ、戦後になると盆踊り最終日に仮装した人が飛び入りするようになったといわれています。

昭和27年8月1日、地域の青果店の店主が中心となって団体で桃太郎の衣装をしたことが評判となり、翌年から盆踊りの最終日に仮装大会が開催されるようになりました。この仮装大会は、交通量の増加を理由に青梅街道の道路の占有許可がおりなかつた昭和36年の前年まで、田無町商工連合会によって毎年開催されました。



仮装行列のおとぎ列車(田無町商店会) 昭和28(1953)年8月1日撮影 西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

模擬原子爆弾

模擬原子爆弾は、本物の原爆と同形・同重量(4.5トン)で、核物質ではなく高性能爆薬が詰められていました。黄色に塗装された球体だったので、「パンキン」と呼ばれていました。

アメリカは、実戦訓練のために模擬原子爆弾を日本国内の49か所に投下しました。昭和20年7月29日に、その中の1発が、現在のしじゅうから第二公園がある場所に落ち、3人の女性が亡くなり、11人が重軽傷を負いました。

現在の谷戸町二丁目にあった試運転工場をデストロするために、中島飛行機武蔵製作所で製造したエンジンの運搬用の軽便鉄道がありました。昭和19年秋口に線路の敷設が始まり、10月頃に開通、昭和20年の終戦とともに撤去されたそうです。

「ほうや公民館だより」縮刷版—第1号〜第46号(平成13年度〜平成16年度)

「西東京市公民館だより」縮刷版2—第47号〜第106号(平成17年度〜平成21年度)

「ほうや公民館だより」総編集3—第211号〜第270号(平成5年度〜平成9年度)

「ほうや公民館だより」総編集4—第271号〜第295号(平成10年度〜平成13年度)

「西東京市公民館だより」縮刷版—第1号〜第46号(平成13年度〜平成16年度)

「西東京市公民館だより」縮刷版2—第47号〜第106号(平成17年度〜平成21年度)

「ほうや公民館だより」総編集3—第211号〜第270号(平成5年度〜平成9年度)

「ほうや公民館だより」総編集4—第271号〜第295号(平成10年度〜平成13年度)

「西東京市公民館だより」縮刷版—第1号〜第46号(平成13年度〜平成16年度)

「西東京市公民館だより」縮刷版2—第47号〜第106号(平成17年度〜平成21年度)

「ほうや公民館だより」総編集3—第211号〜第270号(平成5年度〜平成9年度)